



## (2) 研究の実際

### <理解や習熟の程度に応じた指導>

#### 一斉学習での取り組み

- ・自力解決の際につまずいている子どもには、「ヒントコーナー」「やってみようコーナー」「振り返りコーナー」を設定した。

ヒントコーナー ...子どものつまずきの状況をとらえて段階を追ったヒントや多様な考え方を引き出すことができるようなヒントを用意した。さらにTTを有効に活用して、ヒントごとに分かれて支援したり、ヒントの場所に席を用意したりして、子どもが安心して支援を受けられるようにした。

やってみようコーナー...実際に具体物や半具体物などを使って操作活動のできる場を設定することで、考え方をイメージできるようにした。

振り返りコーナー ...毎時間授業で使用したためあてや子どもの考え、まとめなどを学習コーナーに掲示していった。学習したことが子どもたちに定着するように、また活用して次の課題を解決できるように、学習の流れが分かるような掲示を工夫した。

- ・本時の評価規準を十分満足できると判断された子どもには、「チャレンジコーナー」を設定した。

チャレンジコーナー ...自力解決できた子どもには、本時のねらいの定着を図るために生活に結び付くような問題や発展的な問題に取り組むようにした。

#### 習熟度別学習での取り組み

- ・単元を通して行う習熟度別学習の場合は、1C3Tを基本とし、習熟の程度に応じて3つのコースを設定した。子ども自身がコースを選択し、自分の学習状況に応じて柔軟にコースを変更できるようにした。子どもが的確なコースを選択できるように自己評価カードなどを活用して、自己評価能力を高めるように心がけた。毎時間のねらいはどのコースも同じになるように設定し、そのねらいを達成するために、コースごとに子どもの実態に応じた指導方法を工夫した。

3年生の例 「かけ算のひっ算」

イチゴコース(支援を受けて解決するコース)

...具体物や半具体物での操作活動を取り入れながら個別指導を中心に行った。自分で答えを導きだす喜びを味わえるような支援を心がけた。(模擬貨幣やテープ図などを活用)

メロンコース(ヒントをもとに自力解決するコース)

...ヒントや操作活動をもとに自力解決できるように支援した。多様な計算方法から共通点やよさを探らせていった。

スイカコース(自力解決するコース)

...自力解決できるように支援した。自分の考えた方法を発表する活動を中心にしなが、多様な計算方法を認めつつ、よりよい方法を見いだすことができるようにした。

- ・単元の終末で行う習熟度別学習では、確実に単元のねらいを達成できるように学習内容や指導方法の工夫改善に努めた。習熟度別学習を行う前に、学習内容の習熟と理解を確認する活動を十分に行う。これによって子ども自身が自分の定着の割合をはっきりとつかむことができるし、教師側も一人一人の子どもの実態をとらえることができる。そして、その子どもの実態に応じて、それぞれのコースではどのような学習内容を行うと単元のねらいを確実に実現できるかを決定することもできる。その内容に応じて指導方法を考えた。

5年生の例 「面積の求め方を考えよう」 習熟度別学習の時間を2時間設定

じっくりコース(補充コース)

...平行四辺形や三角形の底辺を変えて、確実に面積を求めることをねらいとした。提示した図形は底辺によって外に高さがある図形を取り上げ、長さも示さなかった。必要な部分を測りながら面積を求める学習内容にすることで、底辺と高さを意識付けて面積を確実に求めることができると考えた。見通しをもつ時間と面積を求める時間を多く設定し、2人の教師で支援した。

#### こつこつコース（充実コース）

…三角形や平行四辺形の面積の公式を活用して、図形の面積を求めることをねらいとした。求める図形には、やはり長さを示さなかった。自分で必要な長さを測りながら、何度も面積の公式を活用することで定着を図りたいと考えた。子どもが安心して意見を言えるように、考え方で2つのグループに分け、少人数で話し合えるようにした。

#### めきめきコース（発展コース）

…既習の図形の面積の求め方をもとにして台形やひし形の面積を求め、公式を導きだすことをねらいとした。提示した台形には長さを示さず、何通りものやり方で面積を求めることで必要な長さに気付き、それをもとに公式を自分の力で発見できるようにしたいと考えた。話し合いの時間を多く設定し、ハンドサインやリレー発言を取り入れて、たくさんの求め方を引き出し、公式につなげていくようにした。

### （3）研究の成果と課題

#### 成果

- ・子どものつまずきの状況を見通した「ヒントコーナー」や「やってみようコーナー」を設定したことで、子どもたちは自分のつまずきに合ったヒントを活用したり、具体物や半具体物を操作したりして主体的に課題解決に向けて取り組むようになった。また、多様な解き方や考え方を見いだすことに喜びを感じる子どもが多くなった。12月の意識調査でも、「いつもいろいろな方法で問題を解こうとする」と答えた子どもが6月に比べて21%も伸びている。
- ・学習内容や子どもの実態に応じて、TTを有効に活用した指導形態や学習形態を工夫してきた。習熟度別学習は自分のレベルに合わせて学習を進めることができるので子どもたちからも好評である。意識調査でも「コースに分かれての勉強が楽しい」と答えた子どもが、12月には61%で、6月と比較して20%も伸びている。
- ・自己評価能力を高めるために自己評価カードを記入させたことは、子どもが自分の学習状況を把握し、習熟度別学習でコースを選択する際に効果的であった。

#### 課題

- ・ねらいを確実に実現させるための習熟度別学習である。本時のねらいをどのコースの子どもたちも達成できるように、そのコースの子どもたちに応じた指導方法を工夫してきたが、さらに一人一人の子どもの実態を把握して、よりきめ細かな指導方法を工夫していく。
- ・習熟度別学習とは限らず、コース別学習を行う場合は、多くの教師がかかわるので、それぞれのコースでの子どもの実態をきちんととらえ、学習状況について継続的に総合的に把握できるような評価を工夫する。
- ・より個に応じた指導の充実を図るためには、習熟度別学習の中に発展的な学習や補充的な学習を効果的に取り入れる教材を開発する。

### （4）研究成果の普及の方策

#### 公開研究会の開催実績

日時：平成15年11月27日（木）  
場所：自校（二ツ井町立二ツ井小学校）  
テーマ：一人一人に確かな学力を～算数科と中心として～  
対象：能代市山本郡内小・中学校

#### 公開研究会の開催予定

日時：平成16年10月8日（金）  
場所：自校（二ツ井町立二ツ井小学校）  
テーマ：一人一人に確かな学力を  
対象：秋田県内小学校 能代市山本郡内中学校

### （5）その他（特色ある取り組み等）

- ・本校では課題選択学習、順序選択学習といった学習形態にも取り組み、子どもの学習への興味・関心が高まるとともに学習の定着も図られた。
  - 課題選択学習…複数ある課題から、子どもが自分の好きな課題を選択し学習していく。子どもの興味・関心に応え、子どもの思いや願いを受け止めた学習を展開することができる。また、それぞれのコースの結果を一斉の場で紹介し合うことで、新たな発見をすることができる。
  - 順序選択学習…複数ある課題の順番を子どもが選択し学習していく。好きな課題から取り組むことができるので興味・関心が高まる。また複数の課題に取り組むので、共通点などから新たな発見をすることができ、学習の定着も図ることができる。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校      14年度からの継続校
- 【学校規模】      6学級以下      7～12学級  
 13～18学級      19～24学級  
                    25学級以上
- 【指導体制】       少人数指導       T・Tによる指導  
   一部教科担任制      その他
- 【研究教科】      国語      社会       算数      理科  
                    生活      音楽      図画工作      家庭  
                    体育      その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有      無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント(都道府県教育委員会記入)】

子どもの実態を十分に把握し、個に応じたきめ細かな指導の充実を図るために、指導方法や指導形態を工夫している。また、習熟の程度に応じた指導の工夫として、補充的な学習や発展的な学習の研究にも努力しているところである。

算数的活動を工夫して、子ども一人一人に主体的な活動を促している。また、1単位時間を弾力的に扱い、幅広い考えをもたせるための練り合いの活動を充実させている。子どもの表現力や共に学び合おうとする態度が養われており、レベルの高い話し合い活動を通して、数学的な考え方の能力を高めることをねらった授業が展開されている。